



# 農地再生レポート通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL 024-521-7415 FAX 024-521-7545 E-mail: nosonshinko@pref.tukushima.lg.jp



## 今季のさわやかリフレッシュ



### 第10回東北管内荒廃農地解消事例発表会が開催されました

去る10月31日に荒廃農地の再生の取り組みを推進するため、東北管内で先進的な取り組みを行っている方々の事例発表会が開催され、本県からは(株)大竹園芸代表取締役 大竹辰也氏(会津若松市)より事例発表がなされました。

事例発表

#### (株)大竹園芸(福島県)

経営安定のため平成29年度に耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用し、30aの荒廃農地を再生して規模拡大を図った。平成26年度からは市のスマートシティ構想によりICT農業に取り組み、水管理の自動化による労力の大幅削減や品質の向上等により収益の向上を図っている。



#### 八幡平市農林課(岩手県)

基金事業の創設をきっかけに、高齢化・後継者不足による農家数の減少、耕作放棄地の増加や小区画ほ場、未整備農地の集積などの地域の課題を関係機関と連携して解決してきた。再生した農地に高付加価値園芸作物の作付けを誘導し、農業所得向上を図っている。

#### (株)あつみ農地保全組合(山形県)

「休耕田」の解消を目的として、実証実験にて黒字化のシステムを検証後、JA100%の出資法人として設立。借り手の見つからない農地を預かり、雇用した作業員(作業班)が農地を保全する仕組みを作る。作物は、所得や労働時間、リスク等を分析し選定している。

また、農家の所得向上や新規就農者の育成、農業法人の設立など、地域営農の確立にも貢献している。



パネルディスカッション

【コーディネーター】岩手大学農学部 木下准教授 ⇒ 3人の発表には、経営的な観点から、「どのように利益を出す仕組みづくりをするか」を考えているところから共通点があったことから、農業経営を考えるにあたり、以下の3つのテーマに沿ってディスカッションが進められました。

- ① 公益性と私益性：荒廃農地の問題は、地域の維持・存続や国土保全に関わる社会的な問題である一方、その再生は、各々の経営に関わる私益的な問題でもある。そこに対し、行政の財政的支援がどこまでできるか。
- ② 経営戦略：低コスト化戦略(手間のかからない作物の選定、ICT技術導入による時間短縮等)、差別化戦略(6次化、特産品等)など。
- ③ 環境適応能力：農業を取り巻く環境の変化にいかに対応するか。

## むらからまちから

## 西会津町農業再生協議会

の取り組みを紹介いたします。

### ① 協議会の設立経緯

西会津町では、耕作放棄地対策の促進を目的として、平成20年度に西会津町地域耕作放棄地対策協議会を設立し、平成25年度に現在の西会津町農業再生協議会と合併し、耕作放棄地の解消及び再生利用に取り組んでまいりました。

### ② これまでの取組状況

当協議会では、国の耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して耕作放棄地を再生してきました。再生された農地では、水稻やソバなどが作付されています。

### ③ 特徴的な取組

当町では、平成30年度に耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、再生した農地に菌床キノコ用ハウスを設置した認定新規就農者がおり、新規就農の確保にも貢献しています。

### ④ 今後の抱負・活動展開予定

今後は、農業委員会等と連携し、人・農地プランの作成や農地中間管理事業の活用を促進していき、農地の集約化や荒廃農地の解消、発生防止に努めていきたいと考えています。



再生前



再生後



にインタビューしました!!

会長 蛭田 一氏



再生した農地で大根を収穫♪

A



「ターン移住者の中でも特に農業に意欲のある人には倶楽部で斡旋した耕作放棄地を解消してもらい、地域の担い手として育成をしていきたいと考えています。また、農業は機械の導入などでコストがかかってしまいます。そのため移住者の方には中山間集落組合で所有している機械を貸し出すなどの支援をし、耕作放棄地を少しでも解消したいと思っています。」

今後の耕作放棄地活用の展開についてお聞かせください。

A



「当倶楽部は、移住希望者に耕作放棄地を紹介し、倶楽部の会員とともに大根など野菜の作付けを行っています。生産された野菜は、惣菜などの6次化商品として加工を行い、付加価値を付けるとともに、多くの地域住民が運営に参加している農産物直売所「山ぼうしの家」で販売するなど、耕作放棄地活用をきっかけに様々な相乗効果が生まれています。さらに私が代表を務める田人地域振興協議会が主催する「たびとほつこり祭」でも販売され、訪れた人達からは大変好評です。今年開催したたびとほつこり祭は、クラウドファンディングを活用し開催資金を募り開催した経緯があります。そのため、資金提供の返礼品にも、耕作放棄地を解消した畑で収穫された野菜による6次化商品を使用しています。」

耕作放棄地解消の取組についてお聞かせください。

A



「過疎化による人口減少が進む貝泊地区の住民有志が中心となり、ターン希望者に対して、様々な体験活動を通して魅力ある貝泊地区に移住してもらいたいという思いから、地域活性化組織の「貝泊コイコイ倶楽部」を設立し、活動の一環として、農業体験で地域の耕作放棄地を活用した「どろんこ大根栽培体験」をはじめとした、野菜栽培に取り組んだのがきっかけです。」

耕作放棄地再生に取り組んだきっかけについてお聞かせください。



# 羅針盤

～福島県・県協議会からのお知らせ欄～



お知らせ

## ～福島県並びに県協議会からのお知らせ～

国の「耕作放棄地再生利用交付金」事業及びその後継事業として創設された「荒廃農地等利活用促進事業」は本年度をもって終了となります。農地再生に活用可能な既存事業としては、簡易な農地整備により担い手への農地集積を図りつつ荒廃農地を再生する場合に「農地耕作条件改善事業」があります。なお、平成31年度実施分の農地耕作条件改善事業の要望調査は下記のとおりとなっています。  
(第4回)：回答期限 1月17日 / (第5回)：回答期限 2月7日 ※回答期限は東北農政局



月日に押し流され・・・あっという間に年の暮れ！何かと気ぜわしくアタフタしております。『レインボー通信～ あっ！年賀状も書かねば～(^^)』 荒廃した私の頭のほうもなんとかせねばと思うこの頃です。土壌改良も必要か・・・(来年の課題に決定)

今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、  
nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp までご連絡ください。